

基礎分野 (14 単位 : 360 時間)

科目名	単位数	時間数	学年	講師名	科目のねらい
論 理 学	1	30	1	外部講師	物事を論理的に思考し、客観的に評価できるものの見方、考え方を養い、論理的な文章表現を理解する。科学的思考力を養う基盤とする。
情 報 科 学	1	30	2	外部講師	情報の集め方、結果の分析・判断・推論の仕方について学び、コンピュータを活用した情報処理の方法が理解できる。
看護と情報	1	15	1	岡本千晶 他外部講師	情報の集め方、結果の分析・判断・推論の仕方について学び、コンピュータを活用した情報処理の方法が理解できる。
哲 学	1	30	2	外部講師	ものの見方・考え方は誰もが持っており、知らずのうちに行動の基準としている。自分自身を含め人間の存在や価値について理解を深め、人間の QOL について考えることの重要性を理解する。また人間の生命尊重・人権尊重の重要性について理解する。
心 理 学	1	30	1	外部講師	人間の心理や行動の基礎にある原理を理解し、人間理解を深める。
社 会 学	1	30	1	外部講師	社会現象の実態や現象の起こる原因に関するメカニズムを知り、現代社会を生きる人々や社会の見方について理解する。特に小中高齢社会に伴い、家族のあり方、家族関係の変化について理解を深める。少子高齢社会に伴い、家族のあり方、家族関係の変化について理解を深める。
教 育 学	1	30	2	外部講師	望ましい人間形成のあり方、人間の可能性を引き出すための教育の意義、方法を学び看護における教育活動に応用できる能力を養う。
スタディスキル	1	15	1	桑原晴美 他外部講師	読む・書く・聴く・述べるなどを実際に行いながら、ノートテイキングや文献検索・読解、レポート作成、グループワーク、プレゼンテーションなど今後の学習で知識と教養を身につけていく。
外 国 語 I	1	30	1	外部講師	国際化社会に対応しうる能力を養うため、日常生活において簡単な英会話ができるようにする。
外 国 語 II	1	30	2	外部講師	カルテの病状経過の解読や海外の文献に触れることができるような基礎を身につける。
体 育 I	1	15	1	外部講師	体力を増強し、健全な身体の発達を図り、自己の体力づくり、健康維持に努める。

科目名	単位数	時間数	学年	講師名	科目のねらい
体 育 Ⅱ	1	30	1	外部講師	リーダーシップ・メンバーシップのあり方を理解し、レクリエーション指導の基礎を理解する。
人間関係論 Ⅰ	1	30	1	外部講師	人間関係の形成は、看護及び各専門職との連携を図る上での基盤となる。そのためまずは、自分自身や周囲との人間関係を見つめ、関係がより一層円滑なるよう行動できる能力を養う。更に医療従事者に必要な人間関係のダイナミズムに対する理解を深め、目的に応じて役割関係を展開する人間関係能力を養う。
人間関係論 Ⅱ	1	15	3	外部講師	看護においては相手の思いを傾聴・共感する態度、能力は必須である。カウンセリング技法を学ぶことによりその能力を養う。

専門基礎分野 (22 単位 : 540 時間)

科目名	単位数	時間数	学年	講師名	科目のねらい
解剖生理学 I	1	30	1	外部講師	人体の発生、構成について理解し、形態と機能（運動・生理も含む）を系統的に理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力の基盤となる知識を習得させる。さらに解剖見学を通して、人体の構造の理解を深める。
解剖生理学 II	1	30	1	外部講師	
解剖生理学 III	1	30	1	外部講師	
解剖生理学 IV	1	30	1	外部講師	
生 化 学	1	30	1	外部講師	人体の構成成分である化学物質の性状、その分布および代謝について理解する。人間が生きていくために生体内でどのようなことが行われ生命活動を営んでいるのかを分子レベルで理解する。
栄 養 学	1	30	1	外部講師	人間にとっての栄養の意義を認識し、食事療法の基本を理解する。また、実際に調理を行い、治療食を調理・試食することで、治療食を摂取する患者に対して生活指導が行えるための具体的な実践力へと結びつける。
薬 理 学 I	1	30	1	外部講師	薬物の特徴、作用機序、人体への影響および薬物の管理について理解する。
薬 理 学 II	1	15	2	山田明子 他外部講師	臨床における看護師の薬に関するヒヤリ・ハットへの対策として必要な知識を理解する。
病態生理学 I	1	15	1	外部講師	病因と病変の特徴を理解し、代表的な系統別疾患の治療、検査について理解する。検体を通し実際の病変を見ることで特徴を理解する。
病態生理学 II	1	30 (8) (10) (6) (6)	1	外部講師	
病態生理学 III	1	30 (8) (8) (8) (6)	1	外部講師	

科目名	単位数	時間数	学年	講師名	科目のねらい
病態生理学 Ⅳ	1	30 (12) (10) (8)	2	外部講師	
病態生理学 Ⅴ	1	30 (12) (10) (8)	2	氏原葉子 他外部講師	
微生物学	1	30	1	外部講師	微生物の特徴と生体に及ぼす影響を学び、その対応について理解する。特に感染症は全ての診療科に関連する重要な疾患である。また、近年の SARS の流行や新型インフルエンザの出現、耐性菌、院内感染など社会的にも大きな問題となっている。そのため、感染症の原因となる各種病原微生物及びこれらに対する宿主の免疫応答機構を理解するとともに、各臓器に特徴的な感染症、人畜共通感染症、輸入感染症、エイズなど免疫低下患者に合併する日和見感染症、院内感染症、そして院内感染対策などについて学ぶ。
体の仕組みと看護 Ⅰ	1	15	1	山田明子	看護実践における安全、安楽な援助を提供するためには、人体の構造、生理機能についての知識を活用しながら看護実践を考えていくことが必要である。グループワークを通して既習の知識と看護を結び付ける考え方を学ぶ。
体の仕組みと看護 Ⅱ	1	15	2	未定	
健康科学 Ⅰ	1	15	1	外部講師	人々の健康の維持のために保健・医療・福祉の統合という今日的課題を軸に、その現状、問題点、背景を理解する。生活環境が心身の健康に及ぼす影響について理解する。また自身の健康を保つための精神衛生の在り方について理解する。
健康科学 Ⅱ	1	15	2	外部講師	
社会保障 Ⅰ	1	30	1	外部講師	社会保障・社会福祉の理念と歴史を知り、現状と動向についての基礎的知識を身につける。社会福祉と医療・社会保障の関連について理解し、対象に必要な社会資源の活用を理解する。また海外の社会保障の在り方から日本の現状を見つめる。海外の社会保障についてグループごとにテーマを持ち日本との比較検討を主体的に行うことで学びを深める。
社会保障 Ⅱ	1	15	3	未定	
社会保障 Ⅲ	1	15	3	外部講師	

科目名	単位数	時間数	学年	講師名	科目のねらい
看護と法律	1	30 (16) (14)	2 2	中村明子 他外部講師	看護に必要な法令について理解する。看護職としての法的責任を自覚するとともに対象に必要な法を活用できるようにする。

基礎看護学 (11 単位 : 300 時間)

科目	単位	時間	学年	科目のねらい	学 習 内 容	講師名
看護学原論Ⅰ	1	30	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とは何かを探究し続けるための基本となる考え方を身につける。 2. 看護師の役割を理解し、対象と看護の視点でかかわるための土台を築ける。 3. 「看護覚え書」「看護の基本となるもの」を抄読し、看護に対する考えを深める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の概念 <ul style="list-style-type: none"> ・看護の本質 ・看護の対象としての人間理解 ・人間と健康 ・ナイチンゲール「看護覚え書」 ・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」 2. 看護師とは 	中村明子
看護学原論Ⅱ	1	30	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護活動の場の拡大や専門性について学び、看護独自の機能・役割について学ぶ。 2. 看護に必要な倫理について考え、理解を深めるとともに倫理的態度の育成につなげる。 3. 看護の対象である地域で生活する人々の暮らしを理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理 2. 国際看護 3. 看護の場の探索 	菅谷周子 桑原晴美 須藤晃代 國田菜穂
看護学原論Ⅲ	1	30	3	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学んだ知識・経験を基礎にして、さらに人間・看護に関する理解を深め、看護観の育成を図る。 	看護学ゼミナール 主なテーマ <ul style="list-style-type: none"> ・東洋医学 ・エイズ ・カウンセリング ・看護とウェルビーイング ・救急看護 ・緩和ケア 	菅谷周子 他外部講師
基礎看護方法論Ⅰ	1	30	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の概念を学び、看護を実践する上で共通する基本技術を学習する。 	看護の基本となる技術① <ol style="list-style-type: none"> 1. 観察・記録 2. コミュニケーション 3. 感染予防 	内山泉 永山美由紀
基礎看護方法論Ⅱ	1	15	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な症状の誘因・原因とそのメカニズムを学び、その症状に合わせた基本的な看護技術を学習する。 	看護の基本となる技術② <ol style="list-style-type: none"> 1. 症状のメカニズム 2. 症状に合わせた看護 	鈴木達也 他外部講師
基礎看護方法論Ⅲ	1	30	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の状態を適切にアセスメントし、看護を考えることができる基礎的能力を養う学習をする。 	看護の基本となる技術③ <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の考え方 	桑原晴美

基礎看護 方法論Ⅳ	1	30	1	1. 対象に応じた看護を 実践するためにフィジ カルアセスメントの意 義を理解する。 2. フィジカルアセスマ ントをするための知識 と基本的技術を習得す る。	看護の基本となる技術④ 1. フィジカルアセスメント	國田菜穂
基礎看護 方法論Ⅴ	1	15	1	1. 臨床判断のプロセス を理解し、臨床判断を 行うために必要な基礎 的能力を養う。	看護の基本となる技術⑤ 1. 基礎看護演習	岡本千晶
基礎看護 方法論Ⅵ	1	30	1	1. 対象に応じた看護を 実践するために生活行 動への援助技術を習得 する。 2. 演習を通して、対象理 解及び看護師として倫 理的な判断をするため の基礎的能力を養う。	生活を支える技術① 1. 活動と休息・移動 2. 清潔・衣生活	岡本千晶 永山美由紀
基礎看護 方法論Ⅶ	1	30	1	1. 対象に応じた看護を 実践するために生活行 動への援助技術を習得 する。 2. 画一的な援助ではな く、対象の個別性に合 わせた援助の必要性を 理解し、実践できる基 礎的能力を養う。	生活を支える技術② 1. 食事 2. 排泄 3. 環境	岡本千晶 國田菜穂 鈴木達也
基礎看護 方法論Ⅷ	1	30	1	1. 対象に応じた看護を 実践するために診断・ 治療・症状に伴う基本 的な援助技術を習得す る。	診療を支える技術 1. 診察・検査と看護 2. 与薬と看護	山田明子 鈴木達也

成人・老年看護学 (10単位 : 270時間)

科目	単位	時間	学年	科目のねらい	学習内容	講師名
成人看護概論	1	30	1	成人各期にある人の特徴が理解する。 成人各期にある人の健康に及ぼす因子を理解し、健康の保持・増進・疾病予防の重要性を理解する。	1 成人看護の意義 2 成人看護の対象の理解 3 成人期の健康問題と保健 4 成人保健の動向 5 成人看護の機能と役割	桑原晴美
成人看護方法論Ⅰ	1	15	2	健康障害に焦点を当てながら看護過程の思考を踏み、対象理解の方法を学習する。	1 看護過程の特徴と概念を再確認する	未定
成人看護方法論Ⅱ	1	30	2	シミュレーション学習を取り入れ、技術習得に向けた考え方や方法を学習する。	1 臨床看護技術の習得とは 2 基礎的な繰り返しの練習 3 シミュレーションによる技術の習得	未定
成人看護方法論Ⅲ	1	30	2	クリティカルケア領域(救急外来、救急病棟、手術室、ICU)における患者の特徴を理解し、必要な看護を学習する。	1 クリティカルケアとは 2 周手術期の看護 3 重症集中看護 4 救急領域の看護	未定
成人看護方法論Ⅳ	1	30	2	「がん」を慢性疾患としてとらえ、経過を理解しながら各治療法別の看護を学習する。	1 がんとはどのような病気か 2 社会生活とがん 3 がんと緩和ケア 4 がん治療における看護 5 がんリハビリテーション 6 機能障害がある患者への看護 7 造血機能障害のある患者への看護 8 乳房疾患を持つ患者の看護 9 がん看護の全体像を考える	山田明子 他外部講師
老年看護概論	1	30	1	高齢者の特徴や生活、健康問題、高齢者を取り巻く社会環境を学習し、看護の機能と役割を思考する。	1 自己の高齢者の見方 2 個人としての高齢者の理解 3 高齢者の多様性の理解 4 高齢者の健康 5 高齢社会における社会保障 6 老年看護学における倫理的な課題 7 高齢社会の展望	氏原葉子
老年看護方法論Ⅰ	1	15	2	認知症高齢者の感じ方を学習し、どのように対応するのが良いのかを学ぶ。認知症高齢者の健康を守るために必要な知識を学ぶ	1 認知症高齢者の感じ方 2 認知症の経過と生活の変化 3 認知症高齢者との関わり方 4 認知症高齢者の生活を守る	未定

老年看護 方法論Ⅱ	1	30	2	高齢者の特徴を踏まえた 看護援助の方法を理解す る。	1 移動介助 2 排泄介助 3 食事介助 4 アクティビティケア 5 エンゼルケア	未定
成人・老年 看護方法 論Ⅰ	1	30	2	タナーによる臨床判断 モデルの概念を理解し つつ、臨床に近い事例を 用いて臨床推論や臨床 判断を活用し、実習場 面で応用できるような 臨床判断能力の素地を 作る学習をする。	1 「健康と疾病」に関 連するコンセプトを中 心にした臨床判断	未定
成人・老年 看護方法 論Ⅱ	1	30	2	タナーによる臨床判断 モデルの概念を理解し つつ、臨床に近い事例を 用いて臨床推論や臨床 判断を活用し、実習場 面で応用できるような 臨床判断能力の素地を 作る学習をする。	1 「健康と疾病」だけ でなく、発達段階や個 人の特性、意思決定に 関する支援なども含む コンセプトのよとの臨 床判断	未定

小児看護学 (4 単位 : 105 時間)

科 目	単位	時間	学年	科目のねらい	学 習 内 容	講師名
小児看護 概論	1	30	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の対象である、子どもの成長・発達と発達段階の特徴を知り、子どもが置かれている健康上の課題について理解を深める。 2. 子どもと家族に対する看護倫理について理解を深め、倫理観・小児観を育む。 3. 小児看護の役割を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の特徴と理念 2. 子どもの最善の利益にかなう医療・看護 3. 小児と家族を取り巻く社会 4. 小児の保健・医療・福祉・教育における看護 5. 今日の子どもを取り巻く諸問題 6. 小児の成長・発達と発達段階・発達課題 	菅谷周子
小児看護 方法論 I	1	30	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児各期の特徴を踏まえ、健康維持増進と成長・発達を遂げるための日常生活の援助について理解できる。 2. 子どもに起こりやすい健康問題や、特別な支援を要する小児と家族への援助について理解できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の役割 2. 子どもの成長・発達に応じたセルフケアと健康増進のための看護 3. 子どもに起こりやすい健康問題とその看護 4. 特別な支援を必要とする子どもと家族への援助 5. 発達段階に応じた日常生活の 援助技術 	星野康子
小児看護 方法論 II	1	30	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害をもつ小児とその家族への援助について理解できる。 2. 検査処置を受ける子どもと家族への看護について理解できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どものさまざまな健康障害と看護 2. 健康障害や入院が子どもと家族に与える影響と看護 3. さまざまな健康問題を抱える子どもと家族への看護 4. 検査・処置を受ける子どもと家族への看護 	星野康子
小児看護 方法論 III	1	15	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の主な健康障害とその検査・治療について理解できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の主な健康障害とその治療 	外部講師

母性看護学 (4 単位 : 105 時間)

科 目	単位	時間	学年	科目のねらい	学 習 内 容	講師名
母性看護 概論	1	15	2	女性の発達段階を踏まえて母性の特性を理解する。 母性を取り巻く社会環境の変化と女性のライフステージ各期の特徴を理解し、生涯を通じた健康の維持・増進への援助を理解する。	1 母性看護の基盤となる主要な概念 2 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 3 母性看護の対象理解 4 女性のライフサイクルにおける健康と看護 5 リプロダクティブヘルスケア 6 母性看護における倫理	未定
母性看護 方法論Ⅰ	1	30	2	妊娠期・分娩期の生理的变化に対する健康の維持・増進への看護について理解する。	1 妊娠期にある人々への看護 ・身体的、心理的、社会的特性 ・妊婦と胎児のアセスメント ・妊婦と家族への看護 ・ハイリスク妊婦への看護 ・妊娠期の看護技術 2 分娩期にある人々への看護 ・分娩の要素と経過 ・産婦と家族への看護	未定
母性看護 方法論Ⅱ	1	30	2	産褥期・新生児期の生理的变化に対する健康の維持・増進への看護について理解する。	1 産褥期にある人々への看護 ・産褥の経過と褥婦のアセスメント ・褥婦と家族への看護 ・褥婦の異常と看護 2 新生児期の看護 ・新生児の生理とアセスメント ・新生児の看護 ・新生児の異常と看護	未定
母性看護 方法論Ⅲ	1	30	2	出生前からのリプロダクティブヘルスケアについて理解する。 妊娠・分娩・産褥の各期に必要な主な診断と治療、看護について理解する。 周産期の看護過程について理解する。	1 出生前からのリプロダクティブヘルスケア ・遺伝・出生前診断 ・不妊治療 2 周産期の診断と治療 3 周産期の異常と看護 4 周産期の看護過程 ・ウェルネス志向とは ・事例(褥婦と新生児)による看護過程の展開	未定

精神看護学 (4単位: 105時間)

科目	単位	時間	学年	科目のねらい	学習内容	講師名
精神看護概論	1	30	1	<ol style="list-style-type: none"> 人間の健康な心の働きを理解できる。 現代社会の問題と心の問題との関連に気づき、精神の健康の回復・維持・増進のための援助を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 心の働き 心の仕組みと発達理論 ストレスとコーピング 精神的危機と看護 社会への適応 精神保健の変遷 精神の健康と維持増進 	今泉沙織
精神看護方法論Ⅰ	1	15	1	<ol style="list-style-type: none"> 精神障害者の人権を尊重する必要性について理解する。 精神障害者の社会生活を支援するためのシステムを理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 精神科医療の現状と課題 精神障害と法制度 精神障害者の社会生活を支える保健医療福祉サービス 	島田陽介
精神看護方法論Ⅱ	1	30	2	精神機能障害および治療、検査を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 精神疾患と不適応 身体疾患と不適応 心理検査と心理療法 	外部講師
精神看護方法論Ⅲ	1	30	2	<ol style="list-style-type: none"> 精神障害時の看護を統合的に理解できる。 精神機能障害を持つ人の再適応への援助を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 治療的対人関係を築くための技術 再適応への援助 事例展開 	今泉沙織

地域・在宅看護学 (6 単位 : 120 時間)

科 目	単位	時間	学年	科目のねらい	学 習 内 容	講師名
地域・在宅看護概論	1	30	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅で生活している人々への看護活動を理解する。 2. 地域・在宅で生活している人々への支援の制度を理解する。 3. 多職種連携の必要性を理解する。 4. 意思決定支援の重要性を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 地域・在宅看護の概念 2) 社会背景と諸制度の変遷と現状 3) 様々な支援と看護の役割 4) ケースマネジメントの必要性 (多職種連携) と専門職の役割 5) 権利保障 (意思決定支援) 	須藤晃代 他外部講師
地域・在宅看護方法論 I	1	15	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の看護活動を理解する。 2. 人々の生活を支える保健・医療・福祉システムの現状とサービスについて理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) ヘルスプロモーション活動 (地域保健事業) 2) 地域のヘルスケアシステム 	須藤晃代 他外部講師
地域・在宅看護方法論 II	1	30	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 移行支援の看護活動を理解する。 2. 地域施設の機能と役割を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 医療施設からの移行支援の実際 (退院支援、退院調整) 2) 地域にある施設の目的や内容、実際 (施設訪問フィールドワーク探索) 	須藤晃代 他外部講師 (協力施設の担当者)
地域・在宅看護方法論 III	1	15	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅医療の支援の必要性を理解する。 2. 在宅医療を支援する組織の活動を理解する。(患者家族会の活動を理解する) 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 様々な疾患と在宅医療の役割 2) ALS 患者の療養生活 (日本 ALS 協会千葉県支部事務局) 	外部講師
地域・在宅看護方法論 IV	1	15	2	日常生活支援の基礎的な内容を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問援助の基本マナー 2) 日常生活援助の実際 ①住生活②衣生活③食生活④排泄⑤清潔⑥移動⑦睡眠⑧服薬管理と受診⑨災害対策 	須藤晃代
地域・在宅看護方法論 V	1	15	2	医療管理 (医療処置と医療機器) の基礎的な内容を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅酸素療法 2) 人工呼吸療法 (吸引・気管切開口のケア) 3) 腹膜透析療法 4) 排尿障害・ストーマケア 5) 褥瘡ケア 6) 経管栄養・在宅中心静脈栄養 7) 疼痛コントロール (緩和ケア) 	外部講師

看護の統合 (4単位: 105時間)

科目	単位	時間	学年	科目のねらい	学習内容	講師名
看護の統合 I	1	30	2	研究の基礎を学び、科学的な思考の必要性を理解する。	1. 研究の概念 2. 看護における研究の意義 3. 研究方法と研究の進め方 4. 文献の意義と文献検索	菅谷周子
看護の統合 II	1	15	3	一つのテーマを追求するプロセスを通して自ら学ぶ姿勢を養い、その基盤を育成する。	1. 研究の実際 (ケーススタディ)	各教員
看護の統合 III	1	30	2	医療安全の基盤となる考えを知り、看護師として責任ある行動をとるために基礎知識や技術を理解する。 救急・災害直後から支援できる看護の基礎知識や技術を理解する。	1. 医療安全と看護 2. 救急時の看護 3. 災害時の看護	須藤晃代 他外部講師
看護の統合 IV	1	30	3	患者を取り巻く医療関係職種がチーム医療においてどのような役割を果たしているのかを理解する。また、多職種との協働の中で看護師としてのメンバーシップおよびリーダーシップのあり方を理解する。さらに、看護をマネジメントできる基礎的能力とは何かを学び、後に続く臨地実習での実践につなげる。これらの学習を通して医療関係職種と看護師との連携のあり方や医療職種の中での看護師の役割について理解する。演習では臨床判断能力を高める。	1. 臨床検査と看護 2. 医療機器と看護 3. 理学療法と看護 4. 診療報酬と看護 5. 医療ソーシャルワーカーの役割と看護 (または医療社会事業と看護) 6. 他職種との連携と看護師の役割 7. 臨床判断を強化する演習	桑原晴美 國田 菜穂 星野 康子 他外部講師

3年間の実習計画

月 学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	基礎 I	基礎 II	基礎 III	基礎 II	基礎 I	基礎 II	基礎 III	基礎 II	基礎 I	基礎 II	基礎 III	基礎 II
2年												
3年	保健実習	統合実習 I	成・老 III 小児 母性 精神 地域・在宅	成・老 III 小児 母性 精神 地域・在宅	成・老 I	成・老 IV 小児 母性 地域・在宅	成・老 I	成・老 IV 小児 母性 地域・在宅	統合	成・老 II 小児 母性 地域・在宅	成・老 II 小児 母性 地域・在宅	成・老 II 小児 母性 地域・在宅



校内学習



臨地実習 or 長期休暇

実習施設一覧

		単 位			実 習 場 所
		単位	時間	時期	
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	30	1年前期	訪問看護ステーション ほのぼの 前原ハート 訪問看護ステーション 訪問看護ステーション きやろっと さかいリハ訪問看護ステーション エール訪問看護ステーション ハビネス訪問看護リハビリテーション 船橋市立医療センター A-4 A-5 A-6 A-7 B-3 B-4 B-5 B-6
	基礎看護学実習Ⅱ	1	45	1年後期	船橋市立医療センター A-4 A-5 A-6 A-7
	基礎看護学実習Ⅲ	2	90	2年前期	B-3 B-4 B-5 B-6
	成人・老年看護学実習 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	各2	各90	2年後期 ～ 3年後期	船橋市立医療センター A-4 A-5 A-6 B-3 B-5 B-6
	小児看護学実習	2	90	2年後期 ～ 3年後期	船橋市立医療センター A-7 船橋旭こども園
	母性看護学実習	2	90	2年後期 ～ 3年後期	船橋市立医療センター B-4
	精神看護学実習	2	90	3年前期	復光会 総武病院
	地域・在宅看護論実習	2	90	2年後期 ～ 3年後期	船橋市保健所 保健総務課 船橋市地域保険課 中央保健センター 船橋市地域保険課 西部保健センター 船橋市地域保険課 北部保健センター 船橋市地域保険課 東部保健センター 徳洲会訪問看護ステーション ほのぼの 前原ハート 訪問看護ステーション 訪問看護ステーション きやろっと 船橋市立医療センター 患者支援センター
	統合実習Ⅰ	1	30	3年前期	船橋市立医療センター A-3 A-4 A-5 A-6
	統合実習Ⅱ	2	90	3年後期	A-7 B-3 B-4 B-5 B-6 E-4